

登録コード	TSX19500	開講年度	2026				
授業科目	建築構造設計学演習					担当教員	松田 昌洋
英文授業名	Structural Design Exercise					副担当	
単位数	4	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期		対象学生
講義室				授業形態	演習	備考	建築学分野 1 年生
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】					【授業の達成目標】	
	2 4 TSカリ、 2 3 TSカリ						
	【研究科共通】環境調和社会，知識基盤社会を多様に支える高度な専門知識と実践的技術力					木造建築物を構造的に分析し、耐力壁や接合部などの性能をふまえた構造計算によって、地震に対する安全性を評価することができるようになる。	
	2 6 TSカリ、 2 5 TSカリ						
	【専攻】環境調和社会，知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力					木造建築物を構造的に分析し、耐力壁や接合部などの性能をふまえた構造計算によって、地震に対する安全性を評価することができるようになる。	
(2)授業の概要	木造建築物の構造設計や耐震診断に関する技術的な知識や計算方法を演習によって修得する。また、現地調査や文献調査によって実際の木造建築物を構造的に分析し、耐力壁や接合部などの構造要素を把握する。以上をふまえ、構造計算によって建物の耐震性能を計算し、地震に対する安全性を評価する。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回～第7回：構造設計と耐震診断に関する文献調査 第8回～第10回：構造要素の種類と性能 第11回～第15回：構造計算の演習 第16回～第18回：建物調査と構造要素の抽出 第19回～第20回：荷重の計算 第21回～第25回：建物の耐震性能の把握 第26回～第29回：地震に対する安全性評価 第30回：まとめ						
(4)成績評価の方法	課題とするレポートや発表への取り組み及び成果物の内容により総合的に評価する。						
(5)成績評価の基準	構造設計や耐震診断に関する知識をふまえて、木造建築物の地震に対する安全性を評価することができる。「水準にある」。構造的な視点での建物分析、耐力壁や接合部などの構造性能の把握、建物全体の耐震性能の計算などが適切になされているかどうかや、総合的な理解度に応じて「やや上にある」、「かなり上にある」、「卓越している」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	1単位当たり『45時間から授業時間を引いた時間量』の自主学習時間（予習・復習）が必要である。						
(7)履修上の注意	特になし						
(8)質問,相談への対応	メールで対応する。 松田（mat@shinshu-u.ac.jp）						
(9)その他							
【教科書】	指定しない						
【参考書】	指定しない						